

ASEAN 50 年： 共同体の歴史的転換と戦略的意義

楊 昊

(台湾・国立政治大学東アジア研究所副教授 /
国立政治大学国際関係研究センター副研究員兼副主任 /
国立政治大学東南アジア研究センター執行長)

吳 書 嫻

(台湾・国立政治大学東アジア研究所博士課程)

【要約】

ASEAN 地域統合の発展は 1967 年の東南アジア諸国連合 (Association of Southeast Asian Nations, ASEAN) の創設とともに動き出した。創設後 20 年近くはその足取りはゆっくりしたものであったが、ポスト冷戦期に入ると発展のスピードが一気に加速した。特に 1997 年に ASEAN 加盟国で ASEAN ビジョン 2020 を策定し、2003 年にインドネシアのバリで開催された首脳会議で ASEAN 経済共同体ブループリントと後続の行動計画が定められてからは、ASEAN を新世紀へと導くべく共同体の構築という目標に向かって、統合にかかる作業を深化させていった。本研究は現在の地域協力や統合に向けた活動の目的である平和、共栄の構築、および制度化の 3 つの方向から、ASEAN 統合 50 年の歴史的・戦略的意義を探る。そして、2017 年の ASEAN 輪番議長国を務めるフィリピンが得た戦略的機会と具体的な成果を分析し、最後に ASEAN 共同体の次の 50 年の課題について全般的な整理と分析を行う。

キーワード：ASEAN、ASEAN 共同体、地域主義、フィリピン、ASEAN の中心性

一 はじめに

国際学界の地域主義（regionalism）への関心は、冷戦時代の欧州統合運動から徐々に世界各地の高度な協力計画へと広がっていき、地域の特性や多元的な共存形態を高度に具えた地域化された世界観（a regionalizing world）が形成された。これら地域協力や地域統合運動の発展には主に3つの方向がある。1つ目は「平和の構築」である。これは各国が相互の平和な関係の構築を積極的に推進することで、安定した地域の雰囲気を作り出し、衝突や偶発的な戦争を減らすためである。2つ目は「共栄の構築」である。これは地縁を基盤とした「地域」で経済貿易や交流を促進し、対話や協力関係の強化を通じて共通目標を実現し、地域内の各国で繁栄と経済貿易による利益を享受できるよう促すものである。3つ目は「制度化」である。これは地域内に国際レベルまたは多国籍レベルのプラットフォームや組織を構築し、これらの地域メカニズムやさまざまな政治的・経済的取り決めを活用することで、「平和」と「共栄」の構築という2つの目的の持続性を引き続き強固なものにしていくための手段である。

このような地域化された世界の国際政治構造のうち、特にアジア太平洋地域の実践が各界の注目を集めている。その中でも、とりわけ1967年に結成された東南アジア諸国連合（Association of Southeast Asian Nations, ASEAN）は、アジア太平洋地域で最も歴史的意義を具えた重要な地域組織である。1960年代の冷戦時代、国際共産勢力は東南アジア諸国の内政情勢に対する安全保障上の脅威となっていた。これに加え、同地域内の国々は領土紛争や政治的緊張などの複雑な治安情勢を抱えていたことから、地域の秩序は不安定な情勢を加速させていた。そのような中、インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5か国が1967年に『ASEAN宣言』（The

ASEAN Declaration)、通称『バンコク宣言』(The Bangkok Declaration)を公表した。この宣言は地域の平和、安定、経済成長の維持を目指すとしたもので、これにより ASEAN が誕生した¹。その後、1984年にブルネイが6番目の加盟国となり、続いてベトナム、ミャンマーとラオス、カンボジアがそれぞれ1995年、1997年、1999年に加盟し、ASEANは10か国となった。その地理的範囲は東南アジアの海洋国家とインドシナ半島の大陸国家に及ぶ²。このほかにも ASEAN 候補国の東ティモール、オブザーバー国のパプアニューギニア、およびオーストラリア、カナダ、中国、欧州連合、インド、日本、ニュージーランド、ロシア、韓国、米国の10の対話パートナー国がいる³。加盟国や対話パートナー国が増えるにつれて、同地域組織が世界や地域情勢の発展に与える影響は徐々に大きくなっていった。

発足から50年後の現在、ASEANは欧州連合(the European Union, EU)とは全く異なる。しかしより東南アジアとアジア太平洋地域の戦略環境および共同体の発展計画に「適用」した重要なメカニズムへと発展を遂げた⁴。シンガポールの南洋理工大学国際関係研究所の特別招聘研究員であり、アセアン政府間人権委員会のシンガポール

¹ “The ASEAN Declaration (Bangkok Declaration),” ASEAN, <http://asean.org/the-asean-declaration-bangkok-declaration-bangkok-8-august-1967/>, Accessed on September 20, 2017.

² “ASEAN Member States” ASEAN, <http://asean.org/asean/asean-member-states/>, Accessed on September 20, 2017.

³ “External Relations,” ASEAN, <http://asean.org/asean/external-relations/>, Accessed on September 20, 2017.

⁴ ここで言及した適用とは、Amitav Acharya の規範のローカル化(norm localization)の概念を指す。特に国際連合憲章や世界規範に定められた規範と理念を ASEAN 主導の地域協力を通じて、東南アジア諸国間交流や地域共同体統合プロセスの中で、徐々に地域内の行動規範や協力の共通認識としてローカル化すること指す。Amitav Acharya, *Whose Ideas Matter? Agency and Power in Asian Regionalism* (Ithaca: Cornell University Press, 2011).

代表でもある Barry Desker が述べたように、ASEAN は欧州連合に続き世界で最も成功した地域組織である⁵。2017 年は ASEAN 創設 50 年にあたり、同地域内ではさまざまな共同体推進計画が深化を続けており、国際社会の注目を浴びている。これに鑑み、本研究は ASEAN 統合 50 年の歴史的・戦略的意義を検討し、次に 2017 年の ASEAN 輪番議長国を務めるフィリピンの戦略的機会と具体的成果を分析し、最後に ASEAN 共同体の次の 50 年の発展と課題について再考する。

二 共同体の再解釈：ASEAN 統合研究の最近の焦点

近年、ASEAN 統合の足取りが速まるにつれて、その協力計画や共同体の実践方案などの具体的な取り組みが、国際学界の高い注目を浴びている。冷戦終結から今日まで、ASEAN 経済協力アジェンダやより広範な東アジア地域包括的経済連携（Regional Comprehensive Economic Partnership, RCEP）の分析を含め、かなり多くの学術文献において、ASEAN 統合と地域経済の今後の発展について考察されている。これは同地域の経済的な将来性や潜在力が無視できないことを示している⁶。このほか、ASEAN の社会分野における交流、特に文化と社会をつなぐさまざまなメカニズムは、10 か国のそれぞれの特徴が顕著に表れていながらつながり合っており、特別な共有アイデンティティを形成している⁷。そして、この共有している ASEAN

⁵ Barry Desker, “Commentary: 50 Years on, Is ASEAN A Community?” *Channel News Asia*, August 3, 2017, <http://www.channelnewsasia.com/news/asiapacific/commentary-50-years-on-is-asean-a-community-9088400>.

⁶ Shahriar Kabir and Ruhul A. Salim, “Regional Economic Integration in ASEAN: How Far Will It Go?” *Journal of Southeast Asian Economies*, vol. 31 (2), 2014, pp. 313-335; Adiwana Aritenang, “Achieving the ASEAN Economic Community 2015: Challenges for Member Countries and Businesses,” *Southeast Asian Studies*, vol. 3 (2), 2014, pp. 467-470.

⁷ Koh Kheng-Lian, “ASEAN Cultural Heritage - Forging an Identity for Realisation of an

アイデンティティ (ASEAN identity) は政治エリートの中だけで醸成されているのではなく、東南アジア内の国境を越えた民間社会でも醸成と拡散を続けており、地域統合のボトムアップにおける重要な原動力となっている。同様の議論は東アジア地域の近年の制度の発展を促進する上で、ASEAN が重要な役割を果たしていることを示しているだけではなく⁸、今まさに「東アジアの時代」を迎えているという意味合いも含まれている⁹。

これらの研究には新たに批判的な分析や整理を行ったものも少なくない。特に中小国家が協力して創設した組織は大国の影響を強く受けることは避けられないなど、ASEAN が直面する現在の政治的な現実や発展の限界に焦点を当てたものも含まれている¹⁰。ある研究では ASEAN の経済構造から、いかにして革新的な法的基盤を構築するのか、その限界と課題について分析している¹¹。アイデンティティ政治の観点から ASEAN 統合を探る研究では、ASEAN の地域主義の理念 (idea) がどのように変容し運用されているかに関心を寄せている¹²。またもちろん価値の側面から ASEAN 地域主義協力と制度的論理な

ASEAN Community in 2015?" *Environmental Policy and Law*, vol. 44 (1/2), 2014, pp. 237-247.

⁸ Malcolm Cook, "Comparing Institution-Building in East Asia: Power Politics, Governance and Critical Junctures," *Contemporary Southeast Asia*, vol. 36 (3), 2014, pp. 483-485.

⁹ Cho Yun Young, "The 'Age of East Asia': Can the Politics of Regime Trump the Politics of Power?" *Korea Observer*, vol. 42 (1), 2011, pp. 145-168.

¹⁰ Paruedee Nguitragool and Jürgen Rüländ, *ASEAN As An Actor in International Fora: Reality, Potential and Constraints* (Cambridge: Cambridge University Press, 2015).

¹¹ Stefano Inama and Edmund W. Sim, *The Foundation of the ASEAN Economic Community: An Institutional and Legal Profile* (Cambridge: Cambridge University Press, 2015).

¹² Anthony Milner and Amitav Acharya, "Whose Ideas Matter? Agency and Power in Asian Regionalism," *Journal of Southeast Asian Studies*, vol. 41(3), 2010, pp. 541-549.

どを研究したものもある¹³。これら ASEAN の理論化を試みた研究成果は、統合の道筋、方向、具体的な成果を厳密に調べるのに実質的な助けとなり¹⁴、東アジアと東南アジアにおける地域秩序のさらなる向上にも役立つ¹⁵。

特に近年、学界では ASEAN の自主性が周辺の大国の介入により受ける影響に多くの注目が集まっており、ASEAN がいかに行動し、制度設計にいかに対処し、大国にどう対応するのかについて、より細かな分析がなされている研究が増えてきている¹⁶。とりわけ ASEAN と東アジアの体制の繋がりや融合について研究したものが、制度研究の発展の重点となっている¹⁷。もちろん、東アジアとアジア太平洋の大国の漸進的な介入は、すでに深刻な影響を及ぼしており、ASEAN 自身が推進しているアジア地域主義や協力ネットワークの中心性と主体性を蝕む可能性があると分析している研究もある。

この命題について続けると、特に台頭している中国の ASEAN に対する広範な影響は、単に経済的および貿易的利益を提供しているだけでなく、国境を越える共同体や地域主義の発展にも影響を与えている¹⁸。ASEAN 諸国は中国に対してどのような戦略的対応を講じ

¹³ Christopher B. Roberts, *ASEAN Regionalism: Cooperation, Values and Institutionalization* (London: Routledge, 2012).

¹⁴ Kim Min-hyung, "Theorizing ASEAN Integration," *Asian Perspective*, vol. 35 (3), 2011, pp. 407-435.

¹⁵ Tan See Seng, "Spectres of Leifer: Insights on Regional Order and Security for Southeast Asia Today," *Contemporary Southeast Asia*, vol. 34 (3), 2012, pp. 309-337.

¹⁶ Jürgen Rüländ, "Southeast Asian Regionalism and Global Governance: 'Multilateral Utility' or 'Hedging Utility'?" *Contemporary Southeast Asia*, vol. 33 (1), 2011, pp. 83-112.

¹⁷ Ralf Emmers, ed., *ASEAN and The Institutionalization of East Asia* (London: Routledge, 2012); Jörg Friedrichs, "East Asian Regional Security," *Asian Survey*, vol. 52 (4), 2012, pp. 754-776.

¹⁸ Zhao Suisheng, ed., *China and East Asian Regionalism: Economic and Security Cooperation*

るのか、これは研究者が深い考察を加え、提示を試みなければならない重要なテーマである¹⁹。例えば、南シナ海の問題における中国のインドネシアに対する広範な影響は、東南アジアにおける大国の競合関係にも影響を与えている²⁰。中国とマレーシアの友好協力関係は、マレーシアが ASEAN 輪番議長国として中国の南シナ海戦略に向き合う際の制限となる²¹。また、中国とベトナムの地域経済における相互依存関係は、ASEAN 経済共同体の発展と投資に影響を及ぼす重要な要素となっている²²。さらに、新しい研究は中国と ASEAN の戦略的パートナーシップの内容、および同関係に対する ASEAN 諸国の反応を探索する方向へと移行している²³。これら理論の探究や再概念化は、確かに ASEAN を理解する多元的な分析構造や理論的多元性を構築できるが、東南アジア地域統合の新しい姿と統合を促進する原動力を探るには、過去 50 年の歴史を紐解き戦略的意義の解読から着手し分析する必要がある。

and Institution-building (London: Routledge, 2012).

¹⁹ He Kai, "Facing the Challenges: ASEAN's Institutional Responses to China's Rise," *Issues and Studies*, vol. 50 (3), 2014, pp. 137-168.

²⁰ René L Pattiradjawane and Natalia Soebagjo. "Global Maritime Axis: Indonesia, China, and a New Approach to Southeast Asian Regional Resilience," *International Journal of China Studies*, vol. 6 (2), 2015, pp. 175-185.

²¹ Vivian Louis Forbes, "ASEAN, China and Malaysia: Cautious Diplomacy, Trade, and a Complex Sea," *International Journal of China Studies*, vol. 6 (2), 2015, pp. 129-148.

²² Thanh Vo Tri, "Vietnam's Perspectives on Regional Economic Integration," *Journal of Southeast Asian Economies*, vol. 32 (1), 2015, pp. 106-124.

²³ Sam Do Tien and Ha Thi Hong Van, "ASEAN-China Relations since Building of Strategic Partnership and Their Prospects," *International Journal of China Studies*, vol. 6 (2), 2015, pp. 187-194.

三 ASEAN 統合 50 年：歴史的・戦略的意義

1 50 年間の協力が地域の安定に果たした貢献

冷戦時代、東南アジア情勢は常に不安定であった。特に 1963 年から 1967 年まではインドネシアとマレーシアの間で発生した激しい衝突により、地域全体が緊張状態にあった。その後、インドネシアの内政の転換に伴い、スハルト率いる新政権は比較的温かな地域政策に修正し、緊迫した状態は一時的に解消された。このような情勢下で次第に形成されていった ASEAN は、東南アジアにおける政府間地域主義の起源と見なされている。当時、ASEAN 協力はまだ保守的であり、5 か国からなる政府間協力メカニズムは経済・貿易交流や社会的交流のレベルにとどまっていた。また政治や安全保障上の議題には関心を持たなかっただけでなく、敏感な境界線も越えようとはしなかった。その主な理由は、メンバー間の相互信頼がまだ不十分であり、地域組織の枠組みや規範も比較的緩やかであったことにある。「安定」という言葉は ASEAN にとってかなり遠いものであった。

ASEAN が発足して 9 年後、正式に非公式首脳会議が開催された。そして、1976 年に各国の首脳が『東南アジア友好協力条約』(Treaty of Amity and Cooperation in Southeast Asia) を正式に採択した。この条約の署名により各国が互いの独立、平等、主権、領土保全を尊重する重要な枠組みが確立し、この規範に基づく国家間の交流原則は以降 40 年余りにわたる相互の共通認識となった。内政不干渉、紛争の平和的解決、武力行使の放棄などの原則は、東南アジアの安定的発展のための重要な規範となっている。

冷戦時代、政治と安全保障協力は ASEAN にとっての焦点ではなく、経済・貿易、産業、投資の分野を検討課題としていた。実はこれが各国が敏感ではない分野の協力を通じて自信をつけ、相互利益を追

求する具体的な行動となった。1970年代の産業協力から1980年代のASEAN成長トライアングル（ASEAN Growth Triangle）までは、小規模な国境を越えた協力メカニズムが地域メンバーの相互信頼を強化する重要な取り組みとなった。1990年代に入ると、ASEANが積極的に推進した『ASEAN自由貿易協定』（ASEAN Free Trade Agreement, AFTA）による貿易の円滑化と関税障壁の引き下げを通じて、各国の支持とASEANの協力を広げる具体的な誘因を強化した。このような経済発展により地域の安定と繁栄を促進させる計画は、ASEANの冷戦期（ひいてはポスト冷戦期まで）における典型的な協力アジェンダとなった。

冷戦終結後、アジア金融危機、自由貿易協定と競争地域主義の多元的発展、中国の台頭、米中2大国による力比の覇権争い構造など、ASEANは新たな地域情勢と課題に直面した。各国首脳はより制度化された措置を講じ、日に日に厳しさを増す情勢に対応していかなければならないことを認識していた。この観点から、ASEANは自身の地域における重要性と不可欠性を迅速に強化する必要があるが、このうち、いかに大国を取り込み、大国の中で柔軟に立ち回るかが、小さな集団が永遠に生存できるかどうかの鍵となる。さまざまな課題に直面する中、ASEANは1997年に『ASEANビジョン2020』（ASEAN Vision 2020）を採択し、新世紀のあらゆる課題に対応するためASEANの制度とガバナンスメカニズムを強化することを議決した。2003年に採択された『第二ASEAN協和宣言（バリ・コンコードII）』（Bali Concord II）では、革新的な意義を具えたASEAN安全・保障共同体（ASEAN Security Community, ASC。後に「ASEAN政治・安全保障共同体」へと調整を図った）、ASEAN経済共同体（ASEAN Economic Community, AEC）、およびASEAN社会・文化共同体（ASEAN Socio-Cultural Community, ASCC）の三本柱を打ち出し、

後の『ASEAN 憲章』（ASEAN Charter）のための布石を打った。

ASEAN 共同体に含まれる3つの柱のブループリントや行動計画が続々と採択されるに伴い、共同体の発展アジェンダをいかに強化するかが焦点となった。2010年に策定された『ASEAN 連結性マスタープラン』（Master Plan of ASEAN Connectivity, MPAC）は、その3つの柱である政治・安全保障、経済、社会・文化の分野を貫き、横の連結を強化する新たな枠組みである。この『ASEAN 連結性マスタープラン』は2016年に改訂版が採択されており、2016年から2025年の間にASEAN 共同体と加盟国の繋がりがいま一度深まることが期待される。

ASEAN 統合50年の転換期、当初あいまいな共通認識だった「安定」という言葉は、徐々に地域の規範から生み出される安定した「理念」、経済貿易協力によって促進される安定した「誘因」、システムを深化させかつ大国を取り込むことで強固にする安定した「ネットワーク」、需要を強化し供給を創出する安定した「連結」へと変化していき、深い歴史的意義を具えた統合パワーを形成した。

2 50年間の協力が共同体形成に果たした戦略的意義

本研究は、ASEAN が始動した地域共同体と広範な発展計画は、少なくとも4つの戦略的意義を具えていると考える。1つ目の戦略的意義はASEAN の統合により東南アジアが急速に成長できる開放的な市場ができたことである。ASEAN は現在6億3,000万人以上の人口を抱えており、このうち35歳未満の総人口は3億6,000万人に上る。この数字は米国の人口をも上回っている。ASEAN が発足した当初、インドネシアの人口は1億人ほどだったが、50年後の現在、2億5,000万人を超えている。同様に1967年のフィリピンの人口はわずか3,000万人余りだったが、現在は正式に1億人を突破し人口大国となって

いる。巨大な人口により期待されるのは豊富な労働力資源だけではなく、東南アジアで今まさに勢い盛んな新興消費人口の存在でもあり、国内と地域市場とを繋ぐ力となっている。また、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ミャンマーなど、労働力人口が非労働力人口を上回るいわゆる「人口ボーナス」の国々は、年間4~7%の速いペースで高い経済成長を維持し続けている。ASEANの現在の貿易額は1967年の100億ドルから2兆2,000億ドル規模にまで拡大し、世界第6位、アジア第3位の経済大国となっている²⁴。注目すべきは、ASEAN経済共同体（ASEAN Economic Community, AEC）の協力の方向性を強調することで、ASEAN諸国は集団的な目標を持ち、経済・貿易や投資の分野において「先易後難」、つまり先に簡単なことから進め、難しい問題は後で解決しようという考えの協力ブループリントを定めることができたことである。また、加盟国に誘因、動機、利益を与えることで、経済問題に関する協力協定を順守させ続けることもでき、団結した雰囲気形成された。さらに重要なのは、過去50年間に締結されたさまざまな経済・貿易問題に関する協力協定と制度化された枠組みが、ASEANが発足当時に描いていた経済交流のイメージをいっそう強化し、単一生産拠点、単一市場という目標へと進んでいることである²⁵。

2つ目の戦略的意義は、ASEANの統合が小規模な多国間協力から大規模な地域共同体の構築という集団路線へと効果的に移行できたことである。ASEAN統合にはいくつかの重要な転換点とマイルストーンがあるが、フィリピン戦略開発問題研究所（Institute of Strategic

²⁴ “Infographics on ASEAN 50 Years Progress,” ASEANstats, 2017, <http://www.aseanstats.org/infographics/asean-50/>.

²⁵ Gerardo P. Sicat, “ASEAN at 50 Years,” *The Philippine Star*, August 16, 2017, <http://www.philstar.com/business/2017/08/16/1729495/asean-50-years>.

and Development Studies, ISDS) 執行長で、長期にわたりアジア太平洋地域のトラック 2 外交に参加してきた Aries Arugay が述べているように、1997 年の『ASEAN ビジョン 2020』と 2003 年の『第二 ASEAN 協和宣言 (バリ・コンコード II)』は、ASEAN が構築した共同体構想や理念をとりわけ強化した²⁶。また、台湾政治大学国際関係研究中心および東南アジア研究中心の楊昊は、インドネシアが主導した ASEAN 統合や共同体構築に関する道筋やブループリントを「バリ宣言三部作」と名づけて説明している。まず、1976 年の『第一 ASEAN 協和宣言』では、ASEAN 諸国間の対話モデルを規範化した。特に紛争の平和的解決、産業強化、経済・貿易協力への呼びかけが地域の発展のための重要な基礎を築いた。2003 年の『第二 ASEAN 協和宣言』では、ASEAN 共同体構想のブループリントと 3 つの柱を示した²⁷。そして、2011 年に採択された『第三 ASEAN 協和宣言』では、域外に対する集団行動の揺るぎない共通認識、および国際社会での集団行動を促進する主要な枠組みと内容が、世界に向けて示された。これにより、ASEAN (東南アジア) と世界経済システムとの繋がりが具体的に強化された²⁸。これらはすべて小規模から大規模へ、地域から世界への展開戦略である。

3 つ目の戦略的意義は、グローバルな発展構造の中で東南アジアの潜在力や能力が具体的に浮かび上がったことである。ASEAN の発展は過去数十年間、初期の原加盟国 5 か国から、現在の主要 7 か国 (ブ

²⁶ Aries A. Arugay, “The Next 50 Years of ASEAN,” *The Diplomat*, August 1, 2017, <http://thediplomat.com/2017/07/the-next-50-years-of-asean/>.

²⁷ “Declaration of ASEAN Concord II (Bali Concord II),” ASEAN, 1967, http://asean.org/?static_post=declaration-of-asean-concord-ii-bali-concord-ii.

²⁸ 楊昊「東協峇里宣言三部曲：邁向集體外交的全球新戰略」『戰略安全研析』第 80 期、2011、頁 29～36。

ルネイとベトナムを加えて)になるまで、常に「ASEANの二層化」(two-tier ASEAN)モデルを維持してきた。経済構造と発展能力の格差に従い、共同体統合の制度設計もそれに対応する時間差を盛り込んだ。しかし、全体的にはASEANは過去、国連のミレニアム開発目標(Millennium Development Goals, MDGs)の着実な実施に全力を尽くした。1990年代には47%だった貧困層が、現在はわずか14%になった。平均寿命も1960年代の55歳から現在は70歳まで大幅に伸びた。また、地域の識字率も当初の74.5%から94.9%にまで増加した²⁹。このような変化はASEANがミレニアム開発目標を達成しただけではなく、国連の持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals, SDGs)に沿う具体的な発展成果をも上げ続けていることを示している。もちろん、現在のASEAN共同体の実施プロセスについては、「発展」と「統合」の理念と実践を各国の指導者、政府関係者、学者、政策策定者など、「ASEAN活動」に参画する「特定の人」だけではなく、ASEAN各国や社会のすみずみにまで広げ、実際に東南アジアで生活している人々を、共同体を実感し実践する「大衆」にしなければならない。

4つ目の戦略的意義は、国際政治構造のなかでASEANが域外とのネットワークを通じてプラットフォーム的役割を強化したことだと考えている。ASEANが発展過程で採ったネットワーク地域主義(network regionalism)のアプローチは緩やかな繋がりにもかかわらず、アジア太平洋地域の政治的ニーズも満たし、同時に政策の柔軟性も具えた常態的な対話プラットフォームを維持することができる。このプラットフォームはASEAN10か国に議題の枠を越えた対話の

²⁹ “Infographics on ASEAN 50 Years Progress,” ASEANstats, 2017, <http://www.aseanstats.org/infographics/asean-50/>.

場を提供するだけでなく、ASEAN+1の対話メカニズム（日本、中国、韓国、米国など）、ASEAN+3（ASEAN Plus Three, APR）、東アジア首脳会議（East Asia Summit, EAS）、およびASEAN地域フォーラム（ASEAN Regional Forum, ARF）など、アジア太平洋地域の大国にも参加、交流、共通認識を凝集できる場を提供している³⁰。過去50年間、ASEANは対外関係において開放的で常態的な発展を遂げ、「ASEANの中心性」（ASEAN Centrality）はその流れに乗ってはっきりと現れてきた。それは、1つにはASEAN加盟国間の団結と共通認識が実現でき、もう1つにはASEANが集団で域外勢力の介入や干渉に対抗する一致した立場を採ったことで国際社会の大国に認められたからである。しかし、近年、加盟国は多くの敏感な地域問題において国益を考慮し異なる立場を持っており、ASEANの中心性や共同体の団結した雰囲気は今後新たな挑戦を受けることになるだろう。2017年のASEAN輪番議長国を務めるフィリピンは、このような地域の団結と国益のバランスを考慮する中で重要な任務を引き継いだ。そして、これがASEANを率いて次の50年へと向かう新たな出発点となる。

四 フィリピンとASEAN創設50年：議長国の戦略的機会と目標

1 議長国フィリピンの3つの戦略的機会

2016年6月30日、ロドリゴ・ドゥテルテ大統領（Rodrigo Duterte）が正式に就任した。この政権交代によりフィリピンは国際情勢や戦略路線の選択に直面した際、これまでとは明らかに異なる様子を見

³⁰ “ASEAN at the 50-Year Mark,” *The Japan Times*, August 25, 2017, <https://www.japantimes.co.jp/opinion/2017/08/25/editorials/asean-50-year-mark/#.WdEHVbpuL4g>.

せた。そして、フィリピンは ASEAN 議長国を務めることで3つの戦略的機会を持った。それは経済発展の促進、内政の安定の維持、および地域の安全維持と国際的な支持の獲得である。

まず、経済発展の促進と地域経済・貿易の統合から見てみると、フィリピンはドゥテルテ大統領就任後、国家開発計画を推進した。これは1600億ドル以上を投じてインフラ整備や社会の発展を推進するプロジェクトであり「ドゥテルテノミクス」の筆頭政策と見なされている³¹。世界銀行（World Bank）の統計によると、2017年のフィリピンのGDP成長率は6.9%に達するとみられる。その主な理由は内需拡大政策を推進していることで、国の発展と経済成長を強力に推し進めているフィリピンは、現在東南アジアで経済成長が最も速い国の一つと見られている³²。フィリピンの内需拡大政策の焦点はインフラ整備と生産能力の増強である。フィリピンは ASEAN の経済・貿易統合プロセスに積極的に参加することで、ASEAN の国際ネットワークを利用し、より多くの外部資源を獲得し、外国投資により国の経済成長を支える二大重要セクター、すなわちサービス業と工業を強化したいと考えている。これがフィリピンが今年 ASEAN 議長国に就任したことで獲得した1つ目の戦略的機会である。

2つ目の戦略的機会は、フィリピンの内政と社会の安定に関係する。フィリピンは長い間世襲政治により国内政治が独占状態にあった。このような世襲政治による国家運営はフィリピンの政治経済構造とも密接に関連しており、その始まりは過去の植民地時代の歴史的経験にまで遡る。フィリピン経済は近年、好調を維持しているものの、

³¹ 林行健「杜特蒂経済學與台灣新南向政策互補」『經濟日報』、2017年9月24日、<https://money.udn.com/money/story/5641/2719658>。

³² “Philippines: GDP,” World Bank, <https://data.worldbank.org/country/philippines>, Accessed on September 20, 2017.

国内では世襲政治に対する不満が広がっていた。これに加え、世界的な金融危機がフィリピンやその他のアジア太平洋地域の発展途上国に与える深刻な影響も、ドゥテルテ大統領のような異色の政治家を誕生させるきっかけとなった。ドゥテルテ大統領は就任後、国内の治安改善や汚職の取り締まりに努め、麻薬密売率の高かった地域や反乱勢力が蔓延っていた地域を住みやすい都市に蘇らせ、さらにはこの政策を全国へも広げた。しかし、そのやり方が余りにも急激で厳格だったことから、人権問題にも発展した。ASEAN 議長国であるフィリピンのこれらの人権問題や国内統治における問題への対応は、ASEAN 加盟国や国際社会から大きな注目を集めている。フィリピン南部には長期にわたり異なる反乱勢力や武装勢力が存在し、近年その社会秩序は悪化の一途をたどっている。その影響はフィリピン南部だけではなく、インドネシア、マレーシアなど、その他のASEAN 加盟国の安全をも脅かしている。フィリピンがこれらの国内問題に適切に対応し解決することができれば、近隣のASEAN 諸国との友好関係は好転するであろう。

3つ目の戦略的機会とはフィリピンの対外関係の転換、特に南シナ海の安全保障と国際的な支援に関する転換を指す。フィリピンは2016年、国内政治情勢の変化に直面した。ドゥテルテ大統領就任後、その外交政策は米国、中国、日本の間で揺れ動いており、中国とは南シナ海問題に関して緊張関係の緩和を試みたが、それは同時に米比関係に微妙な変化をもたらした。フィリピンは米軍との合同軍事演習および南シナ海での共同パトロールを一方的に休止し、米国はフィリピンに対する4億ドルの「ミレニアム挑戦公社」(MCC)の援助を保留にした。ドゥテルテ大統領は軍の支持を得るため、前政権の軍近代化計画の継続を約束した。また、長期にわたり米国の援助を受けてきた軍が反対勢力と合流するのを防ぐため、十分な予算を承

認し米国以外（例えばイスラエルの軍艦やスウェーデンの戦闘機など）との協力も模索した。ここ数年、フィリピンと中国の関係は南シナ海の紛争により停滞、フィリピンは2013年、南シナ海における領有権問題に関して常設仲裁裁判所に申し立てを行った。2013年から2016年に裁定が下されるまでの間、南シナ海周辺国は中国の台頭や勢力拡大に対する懸念から、米国と協力してアジア太平洋戦略に立ち返り、新たなけん制ネットワークを構築した。フィリピンでは南シナ海をめぐる紛争は中国との関係を評価する重要な問題と見なされている。ドゥテルテ大統領は就任後、一方では西フィリピン海（特に南沙諸島）の主権を放棄しないと主張し、一方では中国の一路の提唱や巨大なインフラ整備開発資源に積極的に対応するなど、南シナ海をめぐる発言は膠着状態にある中国とフィリピンの関係に新たな刺激を与えている。しかし、このような対応はASEAN加盟国のフィリピンの外交政策に対する懸念も引き起こしている。

2 フィリピンの議長国としての主な任務と成果

2017年4月26～29日にフィリピンが議長国を務める第30回ASEAN首脳会議がマニラで開催された。フィリピン主導の下、ASEANは「変化しながら世界と融合する（Partnering for Change, Engaging the World）」をサミットのテーマに、ドゥテルテ大統領が選挙期間中に打ち出した「まもなく変化が訪れる（Change is Coming）」のスローガンに共鳴し、地域住民の福祉、地域の利益の促進を核心目標に掲げた。

外交戦略を転換する立場を採っているフィリピンのドゥテルテ大統領は、同サミットの開幕演説のなかで予想されていたとおり南シナ海における埋め立てや軍事施設の建設、および仲裁裁判などの敏感な問題には言及せず、開放的な態度でASEANと中国に対し南シナ

海問題についてさらなる協力と対話を呼びかけた³³。ドゥテルテ大統領の温和な発言は、中国に対する態度を一定程度軟化させたことを反映しており、ASEAN 諸国の地政学的な戦略が表れている。ドゥテルテ政権下におけるフィリピンの中国重視、米国軽視的な戦略転換が、アジア太平洋地域の政治・経済システムと安全保障枠組みの大きな不確定要素となることは言うまでもない。

実際、米中戦略におけるリスク回避の問題は ASEAN 議長国を務めるフィリピンの焦点ではない。ドゥテルテ大統領はそれよりむしろ、人間本位 (people-centered) の共同体の協力計画に関心を寄せている。それは、フィリピンが ASEAN 共同体の良い雰囲気を作り出し、一方では団結の必要性を強調し、一方では地域住民の福祉を優先事項として進めたいと考えているからである。この点を踏まえるとフィリピンは、ASEAN 政治・安全保障共同体、ASEAN 経済共同体、ASEAN 社会・文化共同体の 3 つの柱の構築に対応する 6 つの主軸を設定していると考えられる³⁴。

まず、ASEAN 政治・安全保障共同体の構築に関して、フィリピンは「地域の平和と安定の維持」に力を入れるとともに、『東南アジア友好協力条約』が域内諸国の行動規範の原則であり、地域共同体の形成を促進する重要な枠組みでもあると重ねて言明した。また、海上の安全保障と協力強化の必要性や、『南シナ海に関する行動宣言』(DoC) の順守、地域秩序の安定に寄与するさまざまな規範の積極的な推進も強調している。このほか、フィリピンは ASEAN の国際化

³³ “Remarks of President Rodrigo Roa Duterte at the Opening Ceremony of the 30th ASEAN Summit, PICC, Manila, Philippines, 29 April 2017,” ASEAN Secretariat News, <http://asean.org/remarks-president-rodrigo-roa-duterte-opening-ceremony-30th-asean-summit-picc-manila-philippines-29-april-2017/>, Accessed on September 20, 2017.

³⁴ “ASEAN@50,” ASEAN2017, <https://www.asean2017.ph/>, Accessed on September 20, 2017.

を促進して、ASEANを地域主義のモデルおよび国際社会の参与者にすることで、ASEANの対世界、地域、二国間およびネットワーク内における協力能力と共榮を強化したいと考えている。

次に、ASEAN経済共同体を推進する上で、フィリピンは「イノベーションによる包括的成長の促進」を具体的な目標とし、その実現のために4つの戦略を掲げている。その戦略とは、(1)東ASEAN成長地域(BIMP-EAGA)を発展させ、マレーシア東部、インドネシア東部、フィリピン南部、およびブルネイの経済発展を促進し、加盟国間の経済・貿易格差の是正を目指す(2)貿易と投資の増加、関税障壁や通関手続きの減少、域内の貿易コストと時間を削減して製品の質を高めるとともに、官民の参加を奨励し経済と貿易の統合のために共に努力する(3)イノベーション志向の経済政策を展開する(4)中小零細企業(MSME)をデジタル経済に取り込むことで国内と地域の経済発展を促す——である³⁵。これに対しベトナムのグエン・スアン・フック首相は会議で、現在ASEAN域内の全体の貿易額は約25%に過ぎないことから、ASEAN域外の人的資源も最大限に活用して市場の内部協力を強化する必要があるとの考えを示した。このほか、ASEANの中小企業の割合が90%に上ることから、ASEANは2016年から2025年までの段階的な中小企業発展戦略の行動計画の実施を加速させ、起業活動の推進に特に力を入れ、中小企業に資金援助を提供することで市場を開拓し競争力を向上させる³⁶。

³⁵ “Chairman’s Statement of the 30th ASEAN Summit,” ASEAN, http://asean.org/?static_post=30th-asean-summits-manilla-26-29-april-2017, Accessed on September 20, 2017.

³⁶ “30th ASEAN Summit Open in Manila,” *Vietnam Plus*, <https://en.vietnamplus.vn/30th-asean-summit-opens-in-manila/111005.vnp>, Accessed on September 20, 2017.

表 1 フィリピンの ASEAN 議長国としての任務

6つのテーマ	対応する三本柱	具体的な作業要点	戦略的含意
人間本位	ASEAN 安全・保障共同体	<ul style="list-style-type: none"> 人権； 多文化； 弱者層； 公衆衛生； 住民の福祉； 	フィリピンが住民の福祉を発展の最優先事項の核心としており、ASEAN 地域の人々の権利を守ることが ASEAN 進展を促す鍵だとの考えを強調。
地域の平和と安定の維持	ASEAN 安全・保障共同体	<ul style="list-style-type: none"> 平和な共存； 暴力や過激主義に反対； 薬物の不適切な使用を防止； 万全な紛争解決メカニズムの確立； 	フィリピンが加盟国間の平和な共存を守り、良好な地域パートナーシップ関係の維持に尽力していることを強調。
海上の安全保障と協力の強化	ASEAN 安全・保障共同体	<ul style="list-style-type: none"> 南シナ海関連の宣言の実施および行動規範の推進； 紛争を解決； 法的制度の確立； 海上安全保障の保護； 	フィリピンが地域紛争の平和的解決を堅持し、海洋資源を維持・保護し、法治の確立を海洋ガバナンスの第一任務としていることを強調。
イノベーションによる包括的成長を促進	ASEAN 経済共同体	<ul style="list-style-type: none"> 東 ASEAN 成長地域 (BIMP-EAGA)； 貿易と投資の強化； イノベーション志向経済の発展； 中小零細企業 (MSME) のデジタル経済への統合； 	フィリピンが包括的な成長により企業に成長の機会を提供し、共同体メンバーの経済力を共に向上させることで、世界経済の動向に対応することを強調。
ASEAN の強靱性	ASEAN 社会・文化共同体	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害の減少および気候変動に対する適応性の強化； ASEAN 防災人道支援調整センターの活動強化； ASEAN 生物多様性センターの活動強化； 災害と健康管理； 環境保護の強化； 	フィリピンが域内を持続可能な発展地域へと転換させ、十分な強靱性と回復力により自然災害に立ち向える地域になるよう尽力していることを強調。
地域主義のモデルおよび国際社会の参与者になる	ASEAN 安全・保障共同体	<ul style="list-style-type: none"> 国連機関での ASEAN 声明の発表； 地域内および国際問題関連の声明の発表； 	フィリピンと ASEAN 共同体が ASEAN 加盟国、対話パートナー国および国際社会とのコミュニケーション能力を十分に具えていることを強調。

出典：本年度の ASEAN サミットの成果を筆者が整理。

最後に、ASEAN 社会・文化共同体に呼応するものとして、フィリピンは ASEAN の構造改革に尽力するとともに、弱者層への配慮と公衆衛生ケアを強化し、市民参加やサービスといった議題を具体的に深めていく。また、ASEAN の強靱性（ASEAN Resilience）を向上すべく域内外の災害への対応を優先させ、災害リスクガバナンス、救助救援、管理に関連する制度や協力メカニズムの構築にも取り組むことを目指している。

全体としては、これらの優先的な作業項目において、フィリピンは議長国としての調整能力や執行力を示したいと考えており、具体的な作業要点を示すことで国際社会のフィリピン国内の社会的混乱に対する否定的な見方が変わることを期待している。また、具体的な作業計画により優先的に統合を加速させる分野や項目は、ASEAN 共同体の3つの柱の発展と呼応しており、フィリピンが ASEAN および共同体計画推進の先頭に立って努力し貢献する様子が際立っている。さらに、フィリピンは ASEAN の国際化戦略の推進や ASEAN 共同体全体的な発展の道筋にも着目し、フィリピンが議長国を務める期間に特に南シナ海問題、環境保護、災害管理、人道支援など、域内で取り組みが遅れている問題を引き受けることに意欲を見せることで、責任感のある寛容な国際的イメージを作り出そうとしている。

五 次の50年：共同体形成の過去から続く問題と新たな課題

ASEAN の50年はアジア式地域統合の縮図であり、その成果に見るべきものもあるが、構造上の多くの困難にも直面している。これらの困難には ASEAN に以前から存在している問題もあれば、新たに発生した課題もある。本研究はこれらの問題や課題には少なくとも以下の4つが含まれていると考える。

第一に ASEAN の発展には制度と資金の限界が常に存在しているということである。ASEAN 諸国の ASEAN の業務に対する懸念は、共同体計画の推進と実施に伴い徐々に改善傾向にあるものの、ASEAN の資金不足は既に 50 年も続いている。限りある経費と無限にある仕事との釣り合いが取れておらず、この問題が大規模で体系的な超国家メカニズムと官僚集団の構築を常に不可能にしている。例えば ASEAN 事務局の 2017 年の予算は 2,000 万ドルに過ぎず、これが問題の根本であることを明示している³⁷。ASEAN 共同体の地域統合における取り組みがますます多様化し深化するにつれて、資金不足の問題は共同体運営から派生する新たな課題も生み出している。

資金不足に加えて、共同体計画を実施する国のコミットメントと意欲もまた、大幅に強化する必要がある。統計によると、ASEAN が 2015 年以前に締結した協定や制定した規範のうち、加盟国によって実施されたのはわずか 30% にすぎない。その主な原因は、ASEAN には協定や規範の実施を強制または監督するための強力な核心的メカニズムが不足していることにある³⁸。これもまた、ASEAN がこれまでの制度や協定に対する虚無主義から脱却し、共同体枠組みの下で実施の強化を図らなければならない課題である。

第二に大国の覇権争いと ASEAN の中心性との連動関係である。ASEAN が 50 年来築き上げてきた協力の成果は、新たな共同体の枠組みを形成した。この枠組みは確かにアジア太平洋地域の重要な政府間交流の場であり協力プラットフォームとなっている。既存の共

³⁷ Barry Desker, "Commentary: 50 Years on, Is ASEAN A Community?" *Channel News Asia*, August 3, 2017, <http://www.channelnewsasia.com/news/asiapacific/commentary-50-years-on-is-asean-a-community-9088400>.

³⁸ Surakiart Sathirathai, "Eight Challenges ASEAN Must Overcome," *Today*, August 10, 2015, <http://www.todayonline.com/world/asia/eight-challenges-asean-must-overcome?page=1>.

同体強化方案、および即日から2025年までの第2期ASEAN連結性マスタープランは、共にASEAN加盟国の「対内」発展ニーズを満たしている。さらに重要なのは、ASEANは中国、日本、米国、インドなどの共同体「以外」の主要な大国を東アジアサミットやその他の大規模な対話会議に定期的に招き、地域の敏感な問題やさまざまな紛争について話し合えることである³⁹。大国勢力が継続的に参加するようになると、ASEANの大国との対話を促進するプラットフォーム、戦略的相互信頼を築くメカニズム、発展アジェンダの設定者としての役割は、大国に認められただけでなく、国際社会からも非常に重要視されるようになった。しかし、ASEANが現在置かれている戦略的環境は発足当時とは既に大きな違いがある。大国の介入と浸透、国境を越えた流動的な安全保障問題、域内外のさまざまな敵対関係はすべて、ASEANの自主性とASEANの中心性に対する新たな挑戦となっている⁴⁰。

とりわけ、相対的に国力が弱いASEAN諸国が議長国を務めている期間は、外的影響や介入を受けやすくなる。特に2012年以降はカンボジア、ブルネイ、ミャンマーなど、相対国力の弱い国が議長国になったため、弱いリーダーシップ（weak chairmanship）が形成されてしまった。このような、はめ込み式（embedded）の制度設計により生じている「弱いリーダーシップサイクル」もASEAN共同体発展プロセスにおいて適切に対処すべき課題である⁴¹。

³⁹ Camille Elenia, “ASEAN 2017--ASEAN at 50: Golden Year or Mid-life Crisis?” *Rappler*, February 18, 2017, <https://www.rappler.com/world/regions/asia-pacific/161816-asean-50-years-future-challenges>.

⁴⁰ Aries A. Arugay, “The Next 50 Years of ASEAN,” *The Diplomat*, August 1, 2017, <http://thediplomat.com/2017/07/the-next-50-years-of-asean/>.

⁴¹ 楊昊「沒有共識的共同体：第四十五屆東協外長會議研析」『戰略安全研析』vol. 87、

第三に地域の主要な紛争の未解決により、ASEAN 共同体の団結と正統性が損われる可能性である。ASEAN にとって南シナ海問題は、共同体内部の団結を弱め域外に対する一致した立場を揺るがしかねない重大な問題である。南シナ海をめぐる主権争いについての問題解決は難しく、中国と一部の ASEAN 諸国は長期にわたって二国間の紛争が発生している。ASEAN は地域戦争勃発の可能性を抑制するため、2013 年から南シナ海の行動規範について協議するようになった。しかし中国と ASEAN 双方は同規範の具体的な内容や枠組み設計などでなかなか合意に至らず、2017 年 5 月になってようやく中国メディアが双方が『南シナ海に関する行動規範』(Code of Conduct, CoC)の「枠組み」(framework)草案に合意したと発表した。ただ、この枠組みは『南シナ海に関する行動規範』と『南シナ海に関する行動宣言』の関連性を含んだ綱領的なものにすぎない。主な内容は▽相互信頼の促進、海洋安全保障と航行の自由などの具体的な目的▽各国の主権を尊重すること、同行動規範が領土紛争を解決する手段ではないこと、『行動宣言』を完全に履行することなどの主要な原則▽協力義務や海上における実務協力の推進などの宣言——などである⁴²。このような初歩的な内容では南シナ海問題は未解決のままであり、南シナ海紛争の効果的な対応や真の解決といった理想からは程遠いものであろう。

そして最後の課題は、共同体の急速な発展から安定した均衡ある

2012 年、頁 24～30；楊昊「弱勢領導權對東協核心地位的影響」『戰略安全研析』vol. 86、2012 年、頁 36～44；楊昊「緬甸輪值主席與第二十四屆東協高峰會：超越東協弱勢領導權循環？」『戰略與評估』vol. 5 (2)、2014 年、頁 73～90。

⁴² 楊昊「東協五十年的舊困局與新挑戰」中央廣播電台、2017 年 8 月 14 日、<http://news.rti.org.tw/news/taiwan/?recordId=865>。

利益分配構造への移行である。ASEAN 経済共同体の構築と推進は ASEAN 各国の経済成長や貿易の拡大に直接恩恵をもたらしてくれる。しかし、急速な発展の実現やすばらしい経済データは ASEAN 地域の住民に直接利益をもたらせるのだろうか。実際、単一生産拠点と単一市場をビジョンに掲げる ASEAN 経済共同体は、その資源や利益の大部分が少数のエリートや大企業に集中している。これも理想的な均衡ある地域の発展と経済的利益の分配という目標の達成を困難にしている。もし最も代表的な ASEAN 経済共同体がその利益を「人間本位」の政治的発展と社会的安定の促進に転換できず、「特定の人の利益」という古い考え方を「大衆の利益」という新たな構造へと拡大できなければ、現在 ASEAN が積極的に推進している ASEAN アイデンティティと共同体という意識は依然として薄く壊れやすいままであるだろう。

六 おわりに

ASEAN は発足から 50 年、内部紛争、領土紛争、アジア金融危機、世界金融危機などを経験し、その制度設計に困難が生じたこともあった。しかし、その困難は ASEAN 統合ペースを遅らせるどころか、むしろ小さな国々が集団行動をとり共通目標を構築する原動力をさらに強くした。平和の構築、共栄の構築および制度化を目指して協力してきた道のりも、ASEAN 諸国の歴史的遺産であり、積極的に未来へと向かっていくための基準と依拠でもある。

50 年後の今日、ASEAN の過去から続く問題は依然として存在しており、2015 年に段階的な目標である共同体を発足させ、2017 年に創設 50 周年を迎えても、それは消えることはない。次の 50 年の ASEAN 共同体の新たな挑戦は加盟国政府からだけでなく、大国からの政治的圧力や草の根レベルからの切なる期待からもダイレクトにやっ

てくるだろう。ASEANの中心性の維持はアジア太平洋地域で競合する大国に対応するための仲介メカニズムであり、ASEANの団結とアイデンティティの強化は市民社会の発展ニーズに応える中核的価値である。そして、ASEANの中心性の維持および団結とアイデンティティの強化には、加盟国間で「相互協力なくして生存の道なし」という理念を堅持しなければならず、そうしてこそ共同体を持続可能な発展へと導けるのである。

(寄稿：2017年10月3日、採用：2017年11月6日)

翻訳：西方亜希子（フリーランス翻訳）

東協五十年： 共同體的歷史轉進與戰略意義

楊 昊

（國立政治大學東亞研究所副教授 / 國立政治大學國際關係研究中心
副研究員兼副主任 / 國立政治大學東南亞研究中心執行長）

吳 書 嫻

（國立政治大學東亞所博士生）

【摘要】

東南亞區域整合的發展隨著東南亞國家協會（Association of Southeast Asian Nations, ASEAN）在 1967 年的正式成立而啟動，儘管歷經將近二十年的緩慢推進，不過到了後冷戰時期，東協整合的腳步轉而加快。特別是在 1997 年，東協成員國對於 2020 年東協願景的描繪，以及在 2003 年印尼峇里高峰會所設定的共同體藍圖與後續行動計畫，引領新世紀的東協朝向共同體目標來深化整合工作。本研究從當前區域合作與整合運動的和平化、共榮化與制度化等三個方向出發，探討東協整合五十年的歷史與戰略意義。其次，本研究進一步分析菲律賓於 2017 年擔任東協輪值主席所面臨到的戰略機會與具體成果。最後，本研究亦將針對東協共同體下一個五十年的挑戰進行盤整與分析。

關鍵字：東協、東協共同體、區域主義、菲律賓、東協核心地位

Fifty Years of ASEAN: Historical Transitions and Strategic Significance

Yang Alan Hao

Associate Professor, Graduate Institute of East Asian Studies / Associate
Research Fellow, Associate Director, Institute of International Relations /
Center for Southeast Asian Studies, National Chengchi University

Wu Shu-Hsien

Doctoral Student, Graduate Institute of East Asian Studies,
National Chengchi University

[Abstract]

The establishment of the Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) in 1967 was the genesis for Southeast Asian regional integration. Although progress was slow during ASEAN's first two decades, in the post-Cold War era the pace of regional integration has been accelerating. In particular, since ASEAN member states set out their 'Vision 2020' in 1997 and since the announcement of the ASEAN Economic Community Blueprint at the 2003 ASEAN Leaders Summit in Bali, Indonesia, the ASEAN integration project has been deepening as the grouping moves towards its goal of becoming a leading regional community for the 21st century. From the three core principles underpinning current regional cooperation and integration — peace, co-prosperity and systematization — this research investigates the historical and strategic significance of ASEAN integration after fifty years. Further, it analyses the strategic opportunities and outcomes from the Philippine chairmanship of ASEAN in 2017. Finally, it concludes by examining what the next 50 years hold for the ASEAN community.

Keywords: ASEAN, ASEAN Community, regionalism, the Philippines,
ASEAN Centrality

〈参考文献〉

- 林行健「杜特蒂經濟學與台灣新南向政策互補」『經濟日報』、2017年9月24日、<https://money.udn.com/money/story/5641/2719658>。
- 楊昊「東協峇里宣言三部曲：邁向集體外交的全球新戰略」『戰略安全研析』第80期、2011、頁29～36。
- 楊昊「弱勢領導權對東協核心地位的影響」『戰略安全研析』vol. 86、2012年、頁36～44。
- 楊昊「沒有共識的共同体：第四十五屆東協外長會議研析」『戰略安全研析』vol. 87、2012年、頁24～30。
- 楊昊「緬甸輪值主席與第二十四屆東協高峰會：超越東協弱勢領導權循環？」『戰略與評估』vol. 5 (2)、2014年、頁73～90。
- 楊昊「東協五十年的舊困局與新挑戰」中央廣播電台、2017年8月14日、<http://news.rti.org.tw/news/taiwan/?recordId=865>。
- “30th ASEAN Summit Open in Manila,” *Vietnam Plus*, <https://en.vietnamplus.vn/30th-asean-summit-opens-in-manila/111005.vnp>, Accessed on September 20, 2017.
- “ASEAN at the 50-Year Mark,” *The Japan Times*, August 25, 2017, <https://www.japantimes.co.jp/opinion/2017/08/25/editorials/asean-50-year-mark/#.WdEHVbpuL4g>.
- “ASEAN Member States”ASEAN, <http://asean.org/asean/asean-member-states/>, Accessed on September 20, 2017.
- “ASEAN@50,” ASEAN2017, <https://www.asean2017.ph/>, Accessed on September 20, 2017.
- “Chairman’s Statement of the 30th ASEAN Summit,” ASEAN, http://asean.org/?static_post=30th-asean-summits-manilla-26-29-april-2017, Accessed on September 20, 2017.
- “Declaration of ASEAN Concord II (Bali Concord II),”ASEAN, 1967, http://asean.org/?static_post=declaration-of-asean-concord-ii-bali-concord-ii.
- “External Relations,”ASEAN, <http://asean.org/asean/external-relations/>, Accessed on September 20, 2017.
- “Infographics on ASEAN 50 Years Progress,” ASEANstats, 2017, <http://www.aseanstats.org/infographics/asean-50/>.
- “Philippines: GDP,” World Bank, <https://data.worldbank.org/country/philippines>, Accessed on September 20, 2017.
- “Remarks of President Rodrigo Roa Duterte at the Opening Ceremony of the 30th ASEAN Summit, PICC, Manila, Philippines, 29 April 2017,” ASEAN Secretariat News, <http://asean.org/remarks-president-rodrigo-roa-duterte-opening-ceremony-30th-asean-summit-picc-manila-philippines-29-april-2017/>, Accessed on September 20, 2017.
- “The ASEAN Declaration (Bangkok Declaration),”ASEAN, <http://asean.org/the-asean-declaration-bangkok-declaration-bangkok-8-august-1967/>, Accessed on September 20, 2017.

- Acharya, Amitav., *Whose Ideas Matter? Agency and Power in Asian Regionalism* (Ithaca: Cornell University Press, 2011).
- Aritenang, Adiwan., "Achieving the ASEAN Economic Community 2015: Challenges for Member Countries and Businesses," *Southeast Asian Studies*, vol. 3 (2), 2014, pp. 467-470.
- Arugay, Aries A., "The Next 50 Years of ASEAN," *The Diplomat*, August 1, 2017, <http://thediplomat.com/2017/07/the-next-50-years-of-asean/>.
- Cook, Malcolm., "Comparing Institution-Building in East Asia: Power Politics, Governance and Critical Junctures," *Contemporary Southeast Asia*, vol. 36 (3), 2014, pp. 483-485.
- Desker, Barry., "Commentary: 50 Years on, Is ASEAN A Community?" *Channel News Asia*, August 3, 2017, <http://www.channelnewsasia.com/news/asiapacific/commentary-50-years-on-is-asean-a-community-9088400>.
- Desker, Barry., "Commentary: 50 Years on, Is ASEAN A Community?" *Channel News Asia*, August 3, 2017, <http://www.channelnewsasia.com/news/asiapacific/commentary-50-years-on-is-asean-a-community-9088400>.
- Elemia, Camille., "ASEAN 2017--ASEAN at 50: Golden Year or Mid-life Crisis?" *Rappler*, February 18, 2017, <https://www.rappler.com/world/regions/asia-pacific/161816-asean-50-years-future-challenges>.
- Emmers, Ralf, ed., *ASEAN and The Institutionalization of East Asia* (London: Routledge, 2012).
- Forbes, Vivian Louis., "ASEAN, China and Malaysia: Cautious Diplomacy, Trade, and a Complex Sea," *International Journal of China Studies*, vol. 6 (2), 2015, pp. 129-148.
- Friedrichs, Jörg., "East Asian Regional Security," *Asian Survey*, vol. 52 (4), 2012, pp. 754-776.
- Inama, Stefano and Sim, Edmund W., *The Foundation of the ASEAN Economic Community: An Institutional and Legal Profile* (Cambridge: Cambridge University Press, 2015).
- Kabir, Shahriar and Salim, Ruhul A., "Regional Economic Integration in ASEAN: How Far Will It Go?" *Journal of Southeast Asian Economies*, vol. 31 (2), 2014, pp. 313-335.
- Kai, He., "Facing the Challenges: ASEAN's Institutional Responses to China's Rise," *Issues and Studies*, vol. 50 (3), 2014, pp. 137-168.
- Kim, Min hyung., "Theorizing ASEAN Integration," *Asian Perspective*, vol. 35 (3), 2011, pp. 407-435.
- Koh Kheng-Lian, "ASEAN Cultural Heritage - Forging an Identity for Realisation of an ASEAN Community in 2015?" *Environmental Policy and Law*, vol. 44 (1/2), 2014, pp. 237-247.
- Milner, Anthony and Acharya, Amitav., "Whose Ideas Matter? Agency and Power in Asian Regionalism," *Journal of Southeast Asian Studies*, vol. 41(3), 2010, pp. 541-549.
- Nguitragool, Paruedee and Rüländ, Jürgen., *ASEAN as an Actor in International Fora: Reality, Potential and Constraints* (Cambridge: Cambridge University Press, 2015).
- Pattiradjawane, René L and Soebago, Natalia., "Global Maritime Axis: Indonesia, China, and a New Approach to Southeast Asian Regional Resilience," *International Journal of China*

- Studies*, vol. 6(2), 2015, pp.175-185.
- Roberts, Christopher B., *ASEAN Regionalism: Cooperation, Values and Institutionalization* (London: Routledge, 2012).
- Rüland, Jürgen., “Southeast Asian Regionalism and Global Governance: ‘Multilateral Utility’ or ‘Hedging Utility’?” *Contemporary Southeast Asia*, vol. 33 (1), 2011, pp. 83-112.
- Seng, Tan See., “Spectres of Leifer: Insights on Regional Order and Security for Southeast Asia Today,” *Contemporary Southeast Asia*, vol. 34 (3), 2012, pp. 309-337.
- Sicat, Gerardo P., “ASEAN at 50 Years,” *The Philippine Star*, August 16, 2017, <http://www.philstar.com/business/2017/08/16/1729495/asean-50-years>.
- Surakiart Sathirathai, “Eight Challenges ASEAN Must Overcome,” *Today*, August 10, 2015, <http://www.todayonline.com/world/asia/eight-challenges-asean-must-overcome?page=1>.
- Tien, Sam Do and Ha, Thi Hong Van., “ASEAN-China Relations since Building of Strategic Partnership and Their Prospects,” *International Journal of China Studies*, vol. 6 (2), 2015, pp. 187-194.
- Tri, Thanh Vo., “Vietnam’s Perspectives on Regional Economic Integration,” *Journal of Southeast Asian Economies*, vol. 32 (1), 2015, pp. 106-124.
- Young, Cho Yun., “The ‘Age of East Asia’: Can the Politics of Regime Trump the Politics of Power?” *Korea Observer*, vol. 42 (1), 2011, pp. 145-168.
- Zhao, Suisheng, ed., *China and East Asian Regionalism: Economic and Security Cooperation and Institution-building* (London: Routledge, 2012).

